

# スペインの教育について

## — 教育制度、現地校の実際 —

前マドリッド日本人学校 教諭

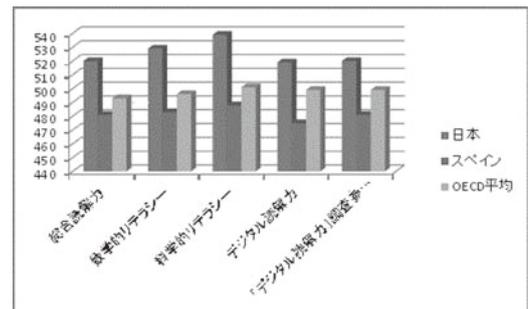
北海道留萌市立港南中学校 教諭 坂見 明 信

キーワード：スペインの教育、スペインの教育制度、スペインの現地校

### 1. はじめに

2000年前後以降、世界各国では、様々な形で初等中等教育のカリキュラム開発に着手してきた。一方、学校現場では、様々な課題が山積し、改革の波に押し寄せられながら、日々、実践と理論の融合を図ろうと努力するがみられる。スペインでもそのことは例外ではなく、スペインの教育は、転換期を迎え、EUの統合をはじめとした国内外の多様化という大波、急激な社会変化の中で教育もその影響を受けている<sup>(1)</sup>。

特に2009年は、経済協力開発機構（OECD）による国際学力学習到達度調査（PISA）が実施され、スペインは四分野（読解力・数学的应用力・科学的应用力、デジタル読解力）ともOECD平均を下回り2006年と比較してさほど変化がない結果に終わった。一方では社会的・経済的に恵まれない生徒に対しては効果があり、教育システムがうまく機能している部分も明らかになっている<sup>(2)</sup>。また、単純な数値比較だけではなく、これらの背景にはここ10年間の大規模な移民受け入れも大きな影響があることをスペイン教育省では言及している<sup>(3)</sup>。これらのことから今後さらなる教育改革が進むことが予想される。また、サパテロ政権からブレイ政権（2011. 12. 20以降）へと移行したことによって、今後も教育界の動向に注目し続ける必要があろう。なぜならば、ブレイは、アスナル政権下で教育文化大臣だったことと、7年ぶりに政権政党が代わることになったことなどが理由である。



OECD Programme for International Student Assessment (PISA) より作成

OECD生徒の学習到達度調査(PISA2009)におけるスペインと日本の比較

	総合読解力	順位	数学的リテラシー	順位	科学的リテラシー	順位	デジタル読解力	順位	「デジタル読解力」調査参加国の「プリント読解力」	順位
日本	520	8	529	9	539	5	519	4	520	4
スペイン	481	33	483	34	488	36	475	14	481	16
OECD平均	493		496		501		499		499	

本論では、スペインの教育について、教育制度（第一章）、現地校の実際（第二章）の面から明らかにしようとするものである。また、現地での調査を踏まえ、日本の教育との類似性や相違について検討したい。

### 2. 教育制度

#### (1) 0歳からはじまる学校教育（初等教育終了まで）

スペインの教育制度は、0歳からスタートし、幼児教育は、0歳から2歳までの第一段階と、3歳から5歳までの第二段階からなる。日本とは異なり、3歳からの第二段階は私立学校も含めて無償である。しかしながら、幼児教育は義務教育ではない。ただし、3歳未満の子どもの就学率は約17%で、実際の学校教育のスタートは3歳である。なお、3歳児の就学率は約96%である。スペインの場合、学齢に達した年度の12月31日までに生まれていれば、その年度に就学できる<sup>(4)</sup>。実際に訪問したColegio Público "EL TEJAR"<sup>(5)</sup>（以下テハール校）でも、その様子を観察できた。

初等教育は、6歳から12歳までの6年間と中等教育の最初の4年間を合わせて10年間を義務教育としている。初等教育で学ぶ科目は、自然・社会・文化の知識、芸術教育、体育、スペイン語および文学、自治州固有の言語がある場合はその言語と文学、外国語、算数である。宗教教育（カトリック）もすべての教育段階において設置義務はあるが、必修ではない。初等教育は将来のための基礎を学ぶ時期として、読み、書き、算数に力が入れている。とくに読み方に対しては、読書の習慣を身につけるために、毎日、一定の時間を割く方向性が示されている<sup>(6)</sup>。

現地校の訪問や現地校に通う保護者へのインタビューから明らかになったこととしては、外国語に関しては、フランス語なども選択枠にあるものの、ほとんどの学校では、英語が履修されている。過去においては（50歳代以上へのインタビュー）、ほとんどがフランス語を履修していたという。

また、公立学校では「音楽教育などには力を入れてないのではないか。」という印象を受けた。教科書の内容等はそれほど差異はないよう感じたが、現地校に通っていた子供や保護者へのインタビューでは、明らかに差異を感じた。日本人学校を訪れた子供たちや転入した子供たちへの聞き取り調査でも、日本人学校の音楽室に楽器があることに驚くなどしていたことがその理由である。また、中学以降では、音楽など一部の教科が選択制（表1参照）になっていることも日本との差異である。

さらに日本ではあまり見られない科目として「シチズンシップ教育」などがある。履修科目の詳細は2006年に制定された「教育組織法（教育基本法）」（以下LOE法）による中学校の時間割（表1）を見ると明らかであるが日本の教科とは異なる面や第4学年での選択教科の状況などがあげられる。

ところで、スペインでは21世紀に入ってから的大量移民でその数が10年間で10倍に増加している。移民の多くが公立学校へ進学するため、現地では、バイリンガル教育を掲げる私立学校などへ進学する子供も少なくない<sup>(7)</sup>。マドリッドでは、街のあちこちに学校案内の看板を見かける。それらの私立学校には外国人学校も存在する。外国人学校は、スペインでは、「スペインにおける外国人学校制度に関する勅令（勅令第806号／1993号）」と言う法律で規定され、その国の教育制度に基づく教育が認められている。スペイン語及びスペイン文化（地理・歴史を含む）を必修科目とした場合、卒業資格を教育科学省に申請、認可されればスペインの他の学校を卒業したのと同等に扱われる<sup>(8)</sup>。この場合、スペインに現存するマドリッド日本人学校やバルセロナ日本人学校のカリキュラムがこれらのケースに該当し、マドリッド日本人学校では短期入学制度を既に2011年以降、実施している。また、日本人学校をあえて選択して入学している日本人家庭も現存している。

さて、筆者が訪問した学校（Colegio Los Penascalesなど）や一部保護者へのインタビューでは、私立学校の授業料は、300～650ユーロと決して安くはない。学校側は一定の授業料によってある種のフィルターをかけているのも事実であろう。保護者はバイリンガル教育などに期待をして、私立学校を選択しているケースが多いであろう。しかし、2012年現在のヨーロッパの経済不況を肌で感じる筆者にとっては、この不況が教育格差の引き金になることを不安視している。その要因として多くのことが考えられる。

教育関連問題では、2011.09.14に、マドリッド自治州が経費節約のため、教員一人あたりの授業数を週18時間から週20時間に変更しようとしているのに対し、新学年の始まる初日にストライキを行なうべく、幾つもの労働組合、更には15-M（社会に不満をもつ者達）による集会が開かれた。教員、学生、学生の親などを含め、2000人以上の参加が見られた<sup>(9)</sup>。当日、筆者は、偶然にも、その様子を目の当たりにした。このような状況はブレイ政権の課題

表1

Horario		1º	2º	3º	4º
Ciencias de la naturaleza	自然科学	3	4		
Ciencias sociales, geografía e historia	地理・歴史	3	3	3	3
Educación física	体育	2	2	2	2
Educación para la ciudadanía	シチズンシップ		2		2
Lengua castellana	スペイン語(カスティジャーノ)	4	4	4	4
Lengua extranjera	外国語	3	3	3	3
Matemáticas	数学	4	4	4	4
Educación plástica y visual	美術・造賞	3		2	3
Música	音楽	3		2	3
Tecnologías/ Tecnología	工学			4	2
Biología y geología	生物・地質				2
Física y química	物理・化学			2	3
Informática	情報処理				3
Latín	ラテン語				3
Segunda lengua extranjera	第2外国語				3
Optativa	選択科目	2	2	2	1
Religión/ Historia y cultura de las religiones	宗教・歴史と文化	2	1	1	1
Tutoría	個別指導	1	1	1	1
Total	合計	30	30	30	30

Boletín Oficial del Estado: sábado 21 de julio de 2007, Núm. 174 p.31828より作成  
※着色部分は選択教科である。3科目を選択する。

の一つでもある。スペインでは政権が変わるたびに教育改革もドラスティックに変えられてきた側面がある、今後の教育界の動向に着目し続けたい。

## (2) 中等義務教育

12歳から18歳までの4年間で中等義務教育（通称ESO）である。1990年の教育制度総合整備組織法（通称LOGSE）で新たに設置された教育段階で、それまでの義務教育は、初等教育のみの8年間であり、また義務教育が終わった段階で普通教育もしくは、職業教育かという二種類の卒業資格があった。その資格を一本化し設置された段階である。また、義務教育の終了年齢であった14歳と、労働最低年齢の16歳を合致させるという目的もあった。初等教育および中等義務教育の二段階を基礎教育を行う段階と位置づけている<sup>(10)</sup>。古くは、カルロス三世（在位1759～88）が学校教育に合理主義的教育と技術教育を導入するもののフランス革命のために頓挫したこと<sup>(11)</sup>なども職業教育が取り入れられている背景として、推察できる。

また、既に初等教育の項で明らかにしたが、LOE法に基づく中学校の履修科目を見ると日本とは異なる部分が多い。「公民」「道徳の時間」「総合的な学習の時間」「特別活動」などは存在しない。逆に「宗教」「シチズンシップ教育」等が存在する。邦人保護者へのインタビューでは、「スペインでは、道徳的なことを指導してくれない。」「担任が生徒指導をしない。（カウンセラーなどが対応）」「放課後、担任は、すぐに帰宅するため連絡が取りにくい。」「スケジュールが全く違う。」などが日本との違いとして明らかになった。宗教教育では、第1～3学年までに、「信仰の多様性」「原始宗教」「宗教（ユダヤ教、キリスト教、イスラム教）」「東洋の宗教（ヒンズー教、仏教）」「宗教行為に関する対応の多様性」「宗教の影響」などを学び、第4学年では、「宗教と社会」「宗教と政治」「宗教と科学・哲学」「宗教の多様性」「宗教と人権」などを学ぶことになっている<sup>(12)</sup>。

## (3) 学校生活、教育環境

学校暦は、各自治州で具体的な日程が決められ、新学期の始まりは、幼児および初等教育が9月1～18日の間、中等教育は9月1～25日の間であり、学年の終わりは6月15～30日の間である。年間の授業日数は幼児および初等教育は最低175日間、中等教育に関しては、最低170日間となっていて、日本と比較すると短い。長期休暇は夏休みの他、クリスマス（約2週間）と聖週間（約1週間）合わせて約3ヶ月でこちらは日本より長い。学校は週5日制をとっている。

一日の時間割は、幼児および初等教育においては、午前9時頃始業、午後1時頃までが午前中の時間である。2時間程度の昼休みを挟んで、午後は3時頃から4時30分頃までである。学校の設置場所にもよるが、共働き父兄のために、幼児教育の場合、始業時間が午前7時30分、終業時間が午後7時30分のところもある。また、午後4時30分から午後6時30分頃まで、学校を使用して、英語、音楽、水泳といった課外活動を実施する自治体もある。中等教育は、午前9時頃から午後3時頃までの継続授業形態をとっている。昼休みが2時間と長いのは、昼食は帰宅して、家族一緒に食べるのが習慣であったからである。しかし、家庭環境の変化によって、家に戻って昼食を取ることができない子どもたちが増えてきた<sup>(13)</sup>。また、休み時間に軽食（メリエンダ）を食べる場合もある。実際に訪問した学校でも軽食と摂取する姿を見かけた。

近隣校を訪問した際、確認すると授業料は公立の場合、義務教育期間は無償であるが、教科書は有償であった。学校から配布されるリストに従って、学用品を買い求めなければならないが、教科書だけでも、教育段階によっても異なるが、各家庭平均200～230ユーロ、全費用は、公立では平均500ユーロ、私立では授業料も含めて平均1,000ユーロの支出となる。教科書の価格をめぐっては、新学期開始の時期になると、新聞紙上でも大きく取り上げられていた。国は教科書に対しての補助制度を設けており、自治州によっては、独自の補助制度を設置し、一部無償割を開始している。毎年8月などは、書店等でリストをもとに教科書を買求める親子を多く見かけた。

## 2. 現地校での実際

ここではテハール校を取り上げスペインの学校に関する特徴を記述する。テハール校は、幼稚園（3～5歳）から小学校までの学校で、2011年現在で児童数約300人規模の学校である。授業は45分間が基準である。1クラスは最大25人である。授業は幼児教育はT.T.が基本で小学生は状況に応じてクラスをセパレートして実施することもある。特別支援教育や「宗教」の科目も実施されている（履修しない児童は「読書」を履修）。

テハール校の学校暦では、2011年度の始業式は9月12日で終業式は翌年6月26日である。冬休みは12月23日から1月8日まで。夏休みは6月27日からである（9月中旬までの3ヶ月弱がスペインの夏休みである）。テハール校の朝は、9:30からである。オプションとして7:30～9:15までの登校も可能である。給食（朝食）も用意できる。午前中の授業は13:00までである。（6～9月は13:30まで）その後、食事と休憩を15:00まで（外部業者による給食やボランティアスタッフによるケアが13:00～15:00までの間、実施されている<sup>(14)</sup>）。その間に教員は外で食事することもある。午後は15:00～16:30までである。17:30までもオプションでケアが可能である。授業前と授業後は、見送りと迎への保護者で周辺道路が混雑することも珍しくない。

また、スクールバスによる送迎も実施されている。通常の授業の他に一般的な活動として美術館巡り（プラド、ティッセン）やサファリパークの訪問、図書館における活動、天文学教室、劇場での鑑賞、歯に関する講演、遠足などが実施されている。給食は、アレルギーに対応している。オプションではあるが、放課後もケアを継続希望する家庭には対応している。その際の給食（夕食）も実施している。長い昼休みの活用方法として外部スタッフによる部活動（日本でいう社会教育に類似）がオプションとして実施されている。テニス、バスケット、サッカーなどが実施されているほか、夏休みや冬休みなどにキャンプなどやスキー教室なども実施されている。また、保護者による、バレエ、スペイン舞踊、油絵、チェス、コンピュータ、英会話なども実施されている。

なお、公立のため授業料は無料である。給食代は有料で、前述したオプションを希望した場合は有料である。年間90ユーロの会費を徴収して、必要な文具（ノート、鉛筆等）などを支給している。このことは、テハール校を訪問した際、同じような文具類を所持しているのを観察できた。

## 3. まとめ

本小論で明らかになったことがらは多くはない。今後も調査活動を継続していきたい。しかしながら、スペインの教育制度を肌で感じる事ができた3年間であった。そこで得た、保護者の生の声や、日本との差異などは貴重な経験となった。また、現地校に通う児童生徒を体験入学期間を通じてではあるが直接指導することも貴重な経験であった。また、年度途中で転入してきた現地校児童を担任する機会にも恵まれ、その保護者と日本とスペインの教育の違い等について議論することもできた。また、任期満了に近づき、新たな課題も見えてきた。特にEUの経済問題が教育に影響をもたらすことや政権変更後の教育改革に伴い、今後スペインの教育が大きく変化する様をこの目で見られないのは、残念であるが、帰国後も研究を継続していきたい。

---

(1) 安藤万奈「教育」、坂東省次、戸門一衛、碓順治編『現代スペイン情報ハンドブック』改訂版、三修社、2007、p.178 School Choice International, Education in Spain, Plain White Press, 2008

(2) [http://www.oecd.org/document/61/0,3343,en\\_2649\\_35845621\\_46567613\\_1\\_1\\_1\\_1,00.html](http://www.oecd.org/document/61/0,3343,en_2649_35845621_46567613_1_1_1_1,00.html) 最終確認 2012.06.07

(3) OCSNEWS No. 285 2011.1.1

(4) 安藤万奈「学校教育は0歳から－幼児・初等教育」、碓順治編『スペイン』、河出書房新社、2008、p.52

(5) Colegio Público "EL TEJAR" C/Romero 4, 28220 Majadahonda TEL 91 639 6400 <http://www.cpeltejar.com/> 最終確認 2012.07.06

(6) 同上、p.56 (7) 同上、p.54 (8) 同上、p.56 (9) <http://www.spainnews.com/news/index.html> 最終確認 2012.07.06

- (10) 安藤万奈「学び続ける機会－中等教育」, 碓順治編『スペイン』, 河出書房新社, 2008, p. 64
- (11) 川成洋「スペインの歴史Ⅱ」, 坂東省次, 川成洋編『現代スペイン読本』, 丸善株式会社, 2008, p. 21
- (12) Boletín Oficial del Estado: viernes 5 de enero de 2007, Núm. 5, pp. 771-773 (13) 安藤万奈, 前掲書「教育」, p. 182
- (14) テハール校以外でも同じような時間割で, 授業が進められている。以下は, Colegio María Auxiliadora (<http://www.colegiomariaauxiliadora.org/>最終確認 2012. 07. 06) の時間割の一例である。実際に訪問した際に確認した資料を基に作成した。

Colegio María Auxiliadora

第1学年	午前				午後	
	9:30-10:20	10:20-11:10	11:10-11:40	11:40-13:00	14:30-15-30	15:30-16:30
時間割	1時間目	2時間目	中休み	3時間目	4時間目	5時間目
月	国語(西語)	算数		社会※	宗教	英語
火	算数	国語(西語)		理科※	英語	図工
水	国語(西語)	社会※		算数	理科※	宗教
木	算数	国語(西語)		英語	社会※	図工
金	国語(西語)	社会※		算数	理科※	音楽

※社会と理科は, 日本とは内容が異なるものの強いて言えば, 相当する教科。